

情報通信文化論課題探求発表

—歴史街道 旧北陸道からみる町の成り立ち—

動機

- ・ 西上田時報を見て、自分の地元にはどんな資料があるのか気になったから
- ・ 自分の地元周辺の成り立ちを知りたいと思ったから

水橋港舢舨場跡常夜灯



当時、港として重要な場所であった水橋川河口は、北前船や汽船の往来が著しく港町として賑わっていた。河口は水深が浅いため荷物の運搬には舢舨が利用された。この常夜灯は、発着場として栄えた先人たちの業績を伝承するため建立された。

坪川の一里塚跡



江戸幕府は主な街道に一里ごとに塚を築かせた。富山県には23基の一里塚があったが、現在では写真にあるものを含め3つしか残されていない。

高塚仲埜割の門松



北陸街道が整備された江戸時代に旅人の目印になるように松が一町ごとに植えられた。現在では残っている松は少なく、この松は樹齢200年以上であるとみられる。

まとめ

- ・ 付近の高校には「海洋科」という学科があり、港町や漁業が栄えた影響が学校教育にも反映されていると考えられる
- ・ 松の植樹や一里塚の建設により職人の需要が増えることで、新たな雇用が生まれ、町の経済を活性化させた
- ・ 私の町を見渡すと歴史と町の発展が密接に関係したものが多くあることが分かった